



YOUTH

第32回日本クラブユース(U-18)選手権

悔いのない夏にしよう!
いざ全国大会へ

出場記念特集



昨年の大会から

第32回日本クラブユース(U-18)選手権は7月26日(土)にグループリーグがスタートする。今年の浦和レッズユースは、昨年の大会出場者が少なくない。連戦となる夏のクラブユースの戦い方を知っているのは強みだ。3年生の中にはジュニアユース時代にU-15大会で優勝を経験している選手もいる。もちろん途中敗退の悔しさも知っている。全国の強豪チームとの試合の中で、新しい自分を発見し、自分の成長を確認する。それは全力を出し切った者だけが味わえるもの。悔いなく戦い、三ツ沢球技場へコマを進めよう。

ハードさに冷静さもプラスして

監督 堀 孝史



昨年の大会から

去年のクラブユースでは準々決勝で広島に負け、高円宮杯では準決勝で流経大柏高に負けました。その中で選手たちも私も、いろいろ学んだことがあります。

今年のチームは、昨年から試合に出ている選手が多く、同じメンバーで長い時間やっているから、わかり合えているところもあるでしょうし、まとまったときには強みを発揮するチームです。攻守の切り替えや、ボールのないところの動き

など、運動量は身につけていると思いますが、試合展開によっては、落ち着いてやらなければいけないところもあります。ハードにはやるけれど、ゲームを冷静に読む力もつけていかなければいけないと思います。

フィジカルコーチの池田誠剛さんからの確かな指導をいただいて、心身ともに良いコンディションで臨めるように準備をしています。それはこれまでと違う部分ですし、こういうことが大会の結果となって表れてくれば、とも思います。

全国への出場が決まったあとの関東大会順位戦で負けたことは、僕らスタッフの中にも何かがあって選手にそれが伝わってしまったのかも知れないし、選手にも何かがあったのかもしれない。勝負事だから厳しさを持っていかなければいけないということですし、この敗戦が良い経験となったかどうかは、全国大会で示すことが大事です。



4 DF 菅井 順平

Jumppei SUGAI

3年 / 浦和レッズジュニアユース
DFラインを統率するリーダー

クラブユース選手権はシーズン前から、チームとして大きな目標にしていた大会ですし、クラブユースに向けたトレーニングが多かったと思います。プリンスリーグが終わって、全国大会への意識がすごく高くなっていくと思いますし、今季から見ていただいている池田誠剛コーチのフィジカルトレーニングも全国に向けたものになっています。ですから良い方向に向かっていると思います。

関東予選の最後の2試合とプリンスリーグの終盤、負けが続きましたが、細かなミスが重なったり、失点が続いたときにチームとしての方向が見えなくなったりすることもあったと思います。クラブユースと高円宮杯の出場が決まったあとということで、全国大会ではそういう隙を見せるとやられてしまうので、それはなくしていかないとはいけません。逆に今の時点で課題が出たので、修正していけると思います。

3年生にとっては最後のクラブユースですし、どのチームも気合を入れてくると思いますが、簡単には負けれない大会です。1戦1戦大事に戦って1つでも多く勝ち、最後は一番上に立っていたいです。(7.13)



1 GK 柴田 大地

Daichi SHIBATA

3年 / FC四日市
積極的な守備が光る守護神



3 DF 山地 翔

Sho YAMAJI

3年 / 狭山JrユースFC
クレバーで冷静なディフェンス



6 DF 永田 拓也

Takuya NAGATA

3年 / 浦和レッズジュニアユース
攻守の切り替えの速さ



8 MF 山田 直輝

Naoki YAMADA

3年 / 浦和レッズジュニアユース
運動量が豊富で展開力のあるMF



2 DF 池田 涼司

Ryoji IKEDA

3年 / 浦和レッズジュニアユース
思い切りの良い攻撃参加



5 DF 浜田 水輝

Mizuki HAMADA

3年 / Santa Clara Sporting Rucks
ヘディングの強さと1対1に強いIDF



7 MF 高橋 峻希

Shunki TAKAHASHI

3年 / 浦和レッズジュニアユース
力強いドリブル&シュート



9 FW 阪野 豊史

Toyofumi SAKANO

3年 / 三郷JrユースFC
フィジカルが強い大型FW

全国大会出場までの歩み(関東予選)

関東予選 2次リーグDグループ

5 / 24 8 - 0 町田ゼルビア
得: 阪野 4、鈴木 2、田仲、磯部

5 / 31 2 - 0 川崎栗の木
得: 石沢、岡田

6 / 1 3 - 1 横河武蔵野ユース
得: 阪野、濱田、鈴木

6 / 8 5 - 0 川崎U-18
得: 石沢、阪野、矢島、磯部、原口

6 / 15 10 - 2 湘南ユース
得: 武富、山田 2、原口 4、矢島、磯部、阪野

* Dグループ 1位が決定

関東予選順位決定戦

・準決勝
6 / 21 2 - 7 柏ユース
得: 矢島、原口

・3位決定戦
6 / 22 0 - 3 横浜FMユース
* 関東第4代表として全国大会へ

2次リーグ全勝通過も順位戦では課題

関東からは9チームが全国へ出場。6チーム×4グループの予選2次リーグを行い、各グループの上位2チームにまず出場権が与えられ、残り1枠は、各グループ3位チームによる9位決定戦で争われる。

レッズユースは、2次リーグ序盤を3連勝。Jクラブの下部組織との試合に臨んだ。第4節はアウェイで川崎フロンターレU-18と対戦。相手が1人退場になったこともあって終始試合を支配し、5-0の快勝。4連勝となったが、川崎がその後、湘南ベルマーレユースに勝ったため、上位3チームの順位は最終節に持ち越された。

敗れると得失点差で3位になる可能性のあった最終節の湘南戦は、いきなり前半3分に失点。しかし8分に武富尚紀のゴールで追いつき、38分に武富のパスを山田直輝が決めて逆転する。後半開始早々、原口元気が左から中央へ切れ込む得意の形でシュートを決めると、その1分後に1点を返されるが、原口はその後15分までに連続3ゴールを挙げる活躍。6-2と大差がついた後も攻撃の手を緩めず結局10得点で大勝利、2次リーグを

5戦全勝の1位で通過した。この時点で関東4位以上が確定、全国大会の切符を手にした。

しかし関東ベスト4を決めた後の順位決定戦では、準決勝で柏ユースに2-7の大量失点、3位決定戦では横浜FMユースに0-3の完封負けを喫するなど、全国大会に向けて課題も出た。



早々に先制しながら同点に追いつかれた第3節。後半、左サイドから永田が何度もチャンスを作った(6.1/横河武蔵野戦)



10MF 田仲 智紀

Tomonori TANAKA

3年 / 浦和レッズジュニアユース
独特のリズムで中盤を支配



12DF 和田 祐樹

Yuki WADA

3年 / 浦和レッズジュニアユース
堅実なディフェンス



14FW 原口 元気

Genki HARAGUCHI

2年 / 浦和レッズジュニアユース
独特なリズムのドリブル突破



16GK 井部 晃貴

Koki IBE

3年 / 上尾SC
高さを生かしたGK



11FW 武富 尚紀

Naoki TAKETOMI

3年 / 浦和レッズジュニアユース
豊富な運動量とDF裏への飛び出し



13MF 岸 幸太郎

Kotaro KISHI

3年 / 浦和レッズジュニアユース
テクニクに優れたMF



15MF 池西 希

Nozomi IKENISHI

2年 / 浦和レッズジュニアユース
全力プレーでチームを引っ張る



17MF 矢島 倫太郎

Rintaro YAJIMA

1年 / 浦和レッズジュニアユース
スピードに乗ったドリブル突破



3-1とリードしてからは安定した守備で相手の反撃を許さなかった (6.1 / 横河武蔵野戦)



先制された第5節だが、前半8分、武富のゴールでまず同点に (6.15 / 湘南戦)



後半2分にゴールを挙げた原口。このあと続けて3点を叩き込み、試合を決定付けた (6.15 / 湘南戦)



大量リードの後も、守備がルーズになることはなかった (6.15 / 湘南戦)



18FW 葺本 啓太
Keita FUKIMOTO
 2年 / 浦和レッズジュニアユース
 得点感覚が優れたFW



20DF 大里 康朗
Yasuaki OSATO
 2年 / 浦和レッズジュニアユース
 1対1に強いDF



22GK 中村 隼
Hayato NAKAMURA
 2年 / 武南ジュニアユースFC
 冷静沈着なGK



24FW 磯部 裕基
Yuki ISOBE
 1年 / 浦和レッズジュニアユース
 スピードに乗ったドリブル&シュート



19MF 石沢 哲也
Tetsuya ISHIZAWA
 2年 / 浦和レッズジュニアユース
 攻守における中盤のバランス



21DF 森田 健介
Kensuke MORITA
 2年 / 浦和レッズジュニアユース
 積極的な攻撃参加でチャンスメーク



23MF 藤野 友則
Tomonori FUJINO
 1年 / クラブアトレティコアレグレ
 パスセンスがあり、視野が広いMF



25DF 岡本 拓也
Takuya OKAMOTO
 1年 / 浦和レッズジュニアユース
 積極的なディフェンスと1対1に強い

第32回日本クラブユース(U-18)サッカー選手権大会

主催 (財)日本サッカー協会、日本クラブユースサッカー連盟
期日 7月25日(金)～8月3日(日)
会場 Jヴィレッジ、ニッパツ三ツ沢球技場(準決勝、決勝)
方式

グループリーグ
 4チーム×6グループでリーグ戦を行う。
 順位は勝点(勝ちに3、引き分けに1)、得失点差、総得点、当該チーム同士の対戦成績、抽選の順で決定する。
 試合時間は40分ハーフ。
決勝トーナメント
 グループリーグの結果、各グループ1位の6チーム、および各グループ2位の6チームのうち成績上位2チーム、計8チームが決勝トーナメントに進出する。
 各グループ1位の6チームに順位をつける。順位は、勝点、得失点差、総得点、抽選の順で決定する。
 各グループ2位の2チームについても同様に順位をつける。
 試合時間は45分ハーフ。ただし同点の場合は10分ハーフの延長を行い、さらに決しない場合はPK方式で勝敗を決める。

出場チーム(グループ分け)

< Aグループ >

F東京 / 大分 / 仙台 / 愛媛

< Bグループ >

横浜FM / 東京V / 札幌 / C大阪

< Cグループ >

G大阪 / 鹿島 / 名古屋 / 川崎

< Dグループ >

柏 / 清水 / 山形 / 福岡

< Eグループ >

広島 / 浦和 / 神戸 / 三菱養和

< Fグループ >

磐田 / 新潟 / 京都 / 横浜FC

大会スケジュール

7月25日(金) 代表者会議
 7月26日(土) グループリーグ
 7月27日(日) グループリーグ
 7月29日(火) グループリーグ
 7月30日(水) 準々決勝
 8月 1日(金) 準決勝
 8月 3日(日) 決勝/閉会式

入場料 準決勝、決勝のみ、大学生以上1,000円、高校生以下500円

その他 優勝および準優勝チームは高円宮杯第19回全日本ユース(U-18)選手権大会に、日本クラブユースサッカー連盟代表チームとして出場する。

レッズユースのグループリーグ

7 / 26 15:00 vs 神戸 (PITCH5)
 7 / 27 13:00 vs 三菱養和 (PITCH2)
 7 / 29 10:30 vs 広島 (PITCH3)

決勝トーナメント組み合わせ

